



「あそびには最強の学習方法が隠されている」

今月は外遊びのお話をさせていただきます。

私の小学校中学年までの遊び方は、校外で「独楽(こま)」 「ビー玉」 「面子(メンコ)」。校内では鬼ごっこ、けんぱた、遊具に夢中でした。高学年になると校外では自転車、野球、釣り、山や田畑を探索。校内では馬乗り、亀の子、Sケン、ハンドベース、ピンポンテニス、ドッジボール、セッチ、高鉄棒、側転からバク転など体力、技術のレベルが上がり、行動範囲も広がっていきました。

紹介した遊び方の呼び名は当時、自分の学区内で使われていたもので、他地区ではどうだったかは知りません。(生徒の皆さんには意味不明のものが多いでしょう?) しかし振り返ってみれば、ほとんどの遊びには勝敗がつきもので、その行方は遊びの技術が大きく左右していたことに高学年となってから初めて気付きました。

語弊はありますが、町内の子どもグループでは、年長者(いわゆるガキ大将)が「勝つ」パターンしかありません。極端な捉え方ですが、1年生の体力・技術が6倍もの年数をかけて成長した体力と技術の持ち主に勝てるわけがありません。

しかし、このサイクルだと1年生だった私も含めた同学年の仲間たちが、いつしか勝者の常連になる・・・はずですが、子どもの社会もそう甘くはありません。同学年同士の勝負では勝てる時ばかりではありませんでした。

それはともかく・・・。まあ、よくも飽きずに取り組んだものだなあ、と我ながら感心してしまいます。高学年では、空中に独楽を放ち、落ちてきた独楽を手のひらに載せて、一番永く回転させることを競う遊びも出来るようになりました。列挙したほとんどの「遊び」の技術は、始めた頃とは大きく変容していました。

なぜ長期間、飽きず、諦めずに取り組めたのか? 子どもだった頃の自分に聞いてみたいです。ばやけた思い出に無理矢理ピントを合わせてみると、「技」を獲得した瞬間の喜びは、「勝つ」ことより大きかったのだろうな、と思います。勝負は「技」を磨くきっかけとなり、「技」の習得は喜びと自信を生み出す。その背景には明確な目標を持ち、良い手本を見つけ、粘り強く自身を修練していく心が、あの頃の私にもあったのでしょう。

恥ずかしいことですが、成人病治療としてジョギングを始めても長続きしません。

今、私に必要なものは、遊びを極めようとした時に生まれる向上心のようなのです。



7・8・9月の主な予定

		8/27(金)	3年生登校 ①②学活
7/ 7(水)～13(火)	三者面談(土日除く)	8/30(月)～9/1(水)	3年前期中間試験
/ 19(月)	大掃除	9/ 3(金)～ /5(日)	3年修学旅行
/ 20(火)	学年・全校集会	/ 6(月)～ /8(水)	1.2年前期中間試験
/ 21(水)～8/31(火)	夏季休業(3年は26(木)まで)	/22(水)	能舞台鑑賞
/ 11(水)～15(日)	学校業務停止期間	/27(月)～10/8(金)	文化発表会

「学年・ブロックを越えて！ー 体育祭 ー」

今年度の体育祭。生徒たちは事前準備（実行委員会、係、クラスでの打ち合わせ etc.）から解団式まで、「笑顔・躍動」という言葉がぴったりの取り組みでした。キュン、と胸打つ感動や励まし合う、称え合う時のさわやかな笑顔。記憶に残る体育祭となるでしょう。

特に3年生が全校生徒に向けた言葉の数々、そして一所懸命動いた姿は1・2年生の心に残り続けると思います。

次に生徒の振り返りをいくつか紹介いたします。

- ・〇〇ブロック長の最後のスピーチカッコよかった
- ・運動に自信のない私でも「やりとげた感」がとてもあります。
- ・負けたけど悔しくなかった。なぜなら楽しかったから。
- ・勝っても負けても「頑張った」ことには変わりないので、そこを重視したい。
- ・やっと中学校に溶け込めた感じ。
- ・学年を越えての練習は楽しかった。
- ・やっぱり行事は楽しい！学校全体が一つの行事に対して本気になれるのがとても良い。
- ・普段物静かな人の強い応援や、怖そうなひとの優しい声かけが新鮮でした。
- ・自分のブロックに関わらず、結果が発表された時や、試合が終わった時に拍手などして良かった。
- ・勝ち負け関係なく、笑顔で終わることができてとても楽しかったです。

コメントからは「熱さ」「たくましさ」「優しさ」「自他の認め合い」そして「成長」を感じました。今後も楽しい生徒たちです。



「結団式」



「前日準備」



「スローガン 垂れ幕」



「開会式」



「リレー」



「大縄」



「タイフーン」



「綱引き」



「閉会式」



「解団式」



「演奏：吹奏楽部」



「練習風景」

「輝いているのは姿だけじゃない！ー 壮行会 ー」

6月23日（水）コンクール、競技会に出場する代表者たちが、吹奏楽部の演奏をバックに堂々と入場。グラウンドでは応援者となる生徒たちが拍手で迎え入れました。

各部代表者より意気込みが語られ、最後は出場部活動代表全員での宣誓。

3年生は最後、2年生は昨年参加（交流大会）できた生徒もいましたが、1・2年生のほとんどが初めての参加となります。体育祭で横と縦とのつながりが生まれ、ますますチームとして成長していることと思います。

「あきらめない」「楽しむ」「全力を出し切る」などなど、前向きな代表者からの言葉に「輝き」を増した生徒たちの心を感じました。



科学部



バレーボール部



卓球部



女子バスケット部



男子バスケット部



ソフトテニス部



バドミントン部



野球部



サッカー部



吹奏楽部

「やり抜いた気持ちを、やり続けるエネルギーに！一市総体一」

6月26日（土）から「藤沢市中学校総合体育大会」が始まりました。昨年は「交流大会」、今年はこれまでの経験を生かした感染症対策を施しての開催です。しかし、各会場施設には入場基準があり、すべての方の入場を認めるわけにはいきませんでした。3年間見守っていただいた3年生の保護者（一家庭一名）の方々の応援が会場によっては許可されています。応援制限はもちろんのこと、3年間の活動にご理解ご協力頂き、感謝申し上げます。

部活動の経験は、今後必ず、何か一つは本人の支えになっていくと思います。

次には残念ながら最後となった部活の画像と報告（簡潔ではありますが）を紹介します。



女子バスケットボール部

6月26日（土）藤ヶ岡中学校で行われた試合は、51－33で長後中学校に負けを喫しました。

最後の最後まで、諦めない頑張りを貫きました。

サッカー部

6月26日（土）1回戦 秋葉台中に1－2で惜敗しました。

3年生は引退となりましたが、粘り強く攻め抜いた姿勢は素晴らしかったです。



藤沢市教育文化センター 教育文化講演会

変化する時代に生きる子どもの心を育てる

～アドラー心理学からの大人の関わり～



社会性、創意工夫力、臨機応変力を育み、自立心・責任感・貢献感を子どもが身につけるには、周りの大人はどのように関わればよいのでしょうか。子どもを伸ばすアドラー心理学の4つのキーワードである「尊敬」「共感」「信頼」「勇気づけ」の理解を深めることを通して、よりよい関わりかたを一緒に考えましょう。

【講 師】 有限会社ヒューマン・ギルド
代表取締役 岩井 俊憲 氏

【経歴・資格等】

アドラー心理学カウンセリング指導者、
上級教育カウンセラーの資格を持ち、勇気づけによるコミュニケーション研修全般
（リーダーシップ、コーチング、カウンセリングマインド、メンタルヘルスなど）を
30年以上に渡り行っています。

と き 8月17日（火）14:00～16:15
（入場無料 手話通訳有）

と ころ 湘南台文化センター市民シアター又はオンライン
定 員 会場参加 100人（先着順）

申込み （会場参加）電話 Tel (50) 8300
（オンライン参加）申込フォーム（二次元コード）

7月12日（月）～7月30日（金）
電話受付 平日 8:30～17:00

問合せ 教育文化センター Tel (50) 8300

